

災害メモリアル神戸

なきさ小学校 五年三組 後藤 有香

岸本さんの話を聞いて一番びっくりしたことは、近所の人や親せきに助けられた人がハ
割もいたという事です。これは、いつもあ
いさつをして、近所の人が覚えてくれている
からだと思います。毎日やっていることが災
害に役立つんだと思いました。

外国からも、助けたいという気持ち
で、救援物資をおくってくれたので、学校で
募金をしているんだと思います。それに私
たちからも、少しでも力になれるように
という気持ちで募金をおくれるのがいいと思
います。

岸本さんが、えん筆をもらったときに、
他の人の名前が書いていて、いやだったの
で消した。

と言っていました。でも、今でも、そのえん
筆を残していたのは、おくってくれた人の
少しでも力になれるように、とか、
助けて

あげたい。という気持ちか、一つのえん筆に
こもっていて、その気持ちを忘れないうように
大切にしているからだと思います。

阪神淡路大震災を経験した人は、

「たくさん失ったものがある。」

と言っていたけれど、「命の大切さや人との
つながりも感じたのではないかなあ。」と思っ
ます。

たれにでも大切なものや守りたいものが
あって、自分を大切にしてくれる人もいる。

だから、「人とのつながりができる人だ。」と
思いました。